

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は 106 ~ 107 円台を中心とする推移か

[ 7月23日から7月31日までの展望 ]

週間高低 (カッコ内は日)		7月20日~7月22日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.12	107.53(20)	106.69(21)	106.86	-0.16
ユーロ・ドル	1.1411	1.1542(22)	1.1403(20)	1.1532	+0.0104
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	22,820.27	+123.85	日本10年債利回り	0.019	-0.005
ダウ平均株価	26,840.40	+168.45	米10年債利回り	0.600	-0.026
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 23日 英6月小売売上高  
米新規失業保険申請件数  
米6月景気先行指数
- 24日 NZ6月貿易収支  
英6月小売売上高  
独6月製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値、非製造業PMI速報値  
ユーロ圏6月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値  
英6月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値  
米6月新築住宅販売件数
- 27日 日本5月景気動向指数改定値  
独7月ifo景況感指数  
米6月耐久財受注
- 28日 米5月S&Pケースシャー住宅価格指数  
米7月消費者信頼感指数
- 29日 豪第2四半期消費者物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 政策金利  
パウエル議長記者会見
- 30日 日本6月小売業販売額  
豪6月住宅建設許可件数  
独第2四半期国内総生産 (GDP) 速報値  
スイス7月KOF先行指数  
独7月雇用統計  
ユーロ圏6月雇用統計  
独7月消費者物価指数速報値  
米第2四半期国内総生産 (GDP) 速報値、米新規失業保険申請件数
- 31日 日本6月雇用統計、日本6月有効求人倍率  
日本6月鉱工業生産指数  
中国7月製造業購買担当者景気指数 (PMI)  
豪第2四半期生産者物価指数  
スイス6月小売売上高  
ユーロ圏第2四半期域内総生産 (GDP) 速報値  
ユーロ圏7月消費者物価指数速報値  
米6月個人所得・個人支出  
カナダ6月鉱工業製品価格  
米第2四半期雇用コスト指数

米7月シカゴ購買部協会景気指数  
米7月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

-----  
※日本市場が4連休となるため、変則的な期間での対応となります。

【前回のレビュー】ドル売り円売りが交錯する中、ドル円は107円を挟んでの一進一退の動きが継続しており、こうした流れがしばらく続いて、ドル円は引き続き106～107円台を中心にもみ合いで推移するとした。

【ドル円は方向感に出にくい展開が続く】

世界の株式市場は新型コロナウイルスの感染者数の拡大などへのネガティブなニュースには反応が鈍く、経済指標の改善や新型コロナウイルス対策のワクチン開発に進展があったとの報道などに反応して堅調に推移している。そうした中、米国株ではハイテク株比率の高いナスダックが最高値を更新する動きを見せている。

世界的な新型コロナウイルスの感染者数は依然として拡大傾向が続いており、とても楽観できるような状況ではない。世界の感染者数は1480万人を超えてきており、死者は61万人超に達している。感染者数の多さは米国が397万人超、ブラジルが217万人超、インドが116万人、ロシアが78.3万人と、毎週毎週、増加傾向が続いている。

感染者数も死者数も増加しているものの、連日のようにワクチン開発や臨床試験の前進きな報道が報じられていることもあり、株式市場は米国を中心に堅調な流れを維持している。ドル円については、107円を挟んでもみ合いが継続している。リスク選好の高まりでドル売りと円売りに傾き、リスク回避の動きでドル買いと円買いに振れるとようように、ドルと円が同じ方向に動きやすい流れが続いている。

7月28～29日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催される。株式市場を中心に金融市場はますます落ち着きを見せており、米経済指標も改善を示すものが多くみられる中、政策金利や金融政策は据え置きなりそうだ。フォワードガイダンス（将来の金融政策指針）の強化などが示される可能性もある。

6月のFOMCメンバーの予測では政策金利は少なくとも2022年までゼロ金利近辺に据え置き見通しとなっている。なお、米連邦準備制度理事会（FRB）もいずれイールドカーブコントロール（YCC）の導入に動くとの見方もあるが、まだ十分に議論は尽くされておらず、今回は議論を深める程度にとどまるとみられる。

7月のFOMCでは現在の緩和的なスタンスに目立った変更はないとみられる。一段と緩和的なメッセージが出てくればドル売りにつながりそうだが、緩和策は株高につながり、円も売られやすくなって、ドル円の方向を大きく変えることはないとみられる。このため、ドル円は現在の106～107円台を中心とする推移が継続することとなりそう。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～108.20円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、23日に米新規失業保険申請件数、米6月景気先行指数、24日に米6月新築住宅販売件数、27日に日本5月景気動向指数改定値、米6月耐久財受注、28日に米5月S&Pケースシラー住宅価格指数、米7月消費者信頼感指数、29日に米MBA住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会（FOMC）政策金利、パウエル議長記者会見、30日に日本6月小売業販売額、米第2四半期国内総生産（GDP）速報値、米新規失業保険申請件数、31日に日本6月雇用統計、日本6月有効求人倍率、日本6月鉱工業生産指数、米6月個人所得・個人支出、米第2四半期雇用コスト指数、米7月シカゴ購買部協会景気指数、米7月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【復興基金についてEU首脳会議で合意】

欧州連合（EU）首脳会議は、当初は17日～18日の日程で行われていたが、EU復興基金について合意が得られず、議論が紛糾した。その後、何度か再開された会議でも合意できず、21日早朝（日本時間同日午後）にようやく合意して閉幕した。足掛け5日に及ぶ長い首脳会議となった。EU復興基金の総額7500億ユーロ（約92兆

円)のうち、返済が不要な補助金は3900億ユーロとなり、残りの3600億ユーロは低利融資となる。

7月17～18日のEU首脳会議で7500億ユーロ規模の復興基金が合意に向けて協議が進むとの期待感や米株高を受けてのドル売りの動きなどからユーロドルは上昇基調で推移してきた。20日に1.14台後半まで上昇したものの、その後は伸び悩みを見せた。21日の合意発表後はもみ合いとなったのちに大きな節目である1.15ドルを突破、その後も一段高となった。

EU復興基金での合意は欧州の景気回復への下支え要因となることが期待される。ユーロドルはEU首脳会議での合意期待などを背景に大きく上昇してきた、やや過熱感はあるものの、緩やかな上昇基調は継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1300～1.1650ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、23日に英6月小売売上高、24日にNZ6月貿易収支、英6月小売売上高、独6月製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値、非製造業PMI速報値、ユーロ圏6月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値、英6月製造業PMI速報値、非製造業PMI速報値、27日に独7月IFO景況感指数、29日に豪第2四半期消費者物価指数、30日に豪6月住宅建設許可件数、独第2四半期国内総生産(GDP)速報値、スイス7月KOF先行指数、独7月雇用統計、ユーロ圏6月雇用統計、独7月消費者物価指数速報値、31日に中国7月製造業購買担当者景気指数(PMI)、豪第2四半期生産者物価指数、スイス6月小売売上高、ユーロ圏第2四半期域内総生産(GDP)速報値、ユーロ圏7月消費者物価指数速報値、カナダ6月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。